

父兄の注意す可き

教育上の要件

和田 實

教育と云ふ事は家庭と學校との協力に俟つ可きものであることは、今更云ふ迄もたゞいことですが。扱て然らば家庭に於ては如何なる點に注意したらば宜しいかと云ふことは一寸簡單に云ひ盡くし悪いことではありません。併し、由來學校と家庭とは其力を用ゆる點が異つて居りますから、従つて其注意す可き方面も各特長を持つて居るものであります。一口で申せば、學校では主として、子供の理解力を進歩させ、認識力を高めると云ふことで、教育して行かうと云ふので、詰まる所、智力を用ゐて教育して行かうと云ふのであります。併しながら、家庭に於ける教育的影響と云ふものは斯かる智識的のものではなくて、主として感情的に又習慣的

に之を慣らして行くことに於て教育的感化を與へるものであります。故に家庭に於ては別段倫理學を教ゆることなくとも、又家政學を教ゆることなくとも。人を自然に道德家たらしめ、家を齊ふる方法をも會得せしむるものであります。

家庭教育は斯様に何時の間にか、其効力を現はすものであります。併し、是も斯様に健全な効力ある様に家庭の主宰者たる人が注意するからのことで、若し家庭を取り縮る可き人が、何等の注意をもすることなく、全く放任して置いたのでは斯かる良効のあらう筈のものではありません。然らば家庭に於ては概して如何なる件々に注意す可きか、即ち子供は家庭に於て如何に不知不識の間に移り行く可きか、簡單には述べ盡くし難きことであります。今其主なる三四の點に就いて説明を試みやうと思ひます。

(一) 子供の遊戯

教へずして教育するには子供をよく遊ばせる都合

よく遊ばせることが大切であります。よく遊ばせると云ふことは只子供自身の遊びに放任せずして、いかに教育すべきかと云ふ目的に向つて有益なる遊戯をとり遊びの目的が利益ある遊びで教育の目的に行くことができる様な遊びをさせると云ふことが大切であります。

遊ぶと云へば普通には無益のこの様に考へて只時間を無益に使ふのが遊ぶことの様になつて居るのは通弊であります。之れは遊戯と云ふことを悪く解釋したのであります。而し子供にとりては遊び程利益あるものはありません、子供が遊戯をするのは教育上大切なことで子供と云ふものは遊ぶので教育ができるのであります。

未だ學校に來らざる子供でも遊ぶから大きくなるので遊ぶことがなかつたならば子供は大きくならないことができます。されど子供が遊ぶには玩具がなかつたならば子供は遊ぶことはできません遊ぶことができなければ子供は死んでしまふのであり

ます。特に兒童が遊ばなかつたならば活動と云ふことがなくなつてしまふので人は活動で生きて居るのであると云ふことは兒童に尤も適切にあてはまるものであります。蓋し遊ぶと云ふことは子供の活動であります。であるから活動することがなかつたならば兒童は死より外にないのであります。して見れば遊ぶと云ふことは子供にとりては甚だ大切であると云ふことが明白であらうと思ふ。世人のすること色々分類してかゝることをする人、かゝることをする人と分類して見ると同じく子供の遊戯も同じであります。大人は小説を好み子供はお伽噺を好む、之と同じく大人が玉つきなり Foot ball なり野球をすれば子供も之と同じくことを好む、大人が碁を打つには大層頭をつかふが子供も又頭を使ふて遊ぶことをします、子供の遊戯が全く發達して大人の遊戯となるに外ならないのであります。之は大家も同じ意見を述べてをります、實際子供の遊戯の發達したものが大

人の活動となるので遊戯は人の活動の凡てを含むものであります。

子供を遊ばせるのは子供が將來世に立ちて活動するに都合よからしむる爲めであるから子供を教育の目的に叶ふたる様に遊ばせることが大切であります、かくすることが経験上より見ると正當のこととであります、而して家にありて子供を遊ばせるには其遊戯の種類に注意せなければなりません、此に注意を向けてをれば必ず子供があるものに進み又ある方面に發達しつゝあると云ふことが分るのであります、而せずして子供をばかくせんと思ひしにかゝる子供になりたなど、云ふのは子供の遊戯を知らないからであります、子供が或る方面に導かれつゝあることを知らないからであります、いかなる感化を受けいかなる行動をなしつゝあるかに氣がつかないからであります、父兄たるものが時によりてかゝることを強ひたる覺えがないのかゝる子供になつたとて嘆くのは其人は教育の

方法に三つあると云ふことを知らないからであります、若し此方法を皆よく知つて居たならば、今子供はいかなる方面に進みつゝあるかと云ふことを知り又其向ひつゝある感情を注意して適當に之を導くことができず。

特に遊戯を見たらば其事がよく分るのであります、遊戯はよく其方法を考へてやらなければなりません、子供はいくらしてもかくすことができませぬので猫をかぶることは子供にはできないのであります、遊戯を見ては兒童の善惡を見ることが容易く分ります、故に遊戯を善き方法の方に導くことが大切であります、之が遊戯に就いて第一に注意しなければならぬこととあります、次には遊戯の種類は善であつても子供にとりて興味がなければ無用であります興味がなかつたならば少しは遊んで子供はすぐに遊ぶことを止めますそこで教育的價值ある遊戯をさせるには興味をもたせると云ふことが大切であります少し注意したならば此數

育的方面に向ふる遊戯に興味をもたせることができません。次に遊戯をさせるには子供の自由活動に任かすと云ふことが大切であります。人から干渉され人からこうやれあゝやれと云はれる様になると遊ぶのでなくして仕事をすることになるのであります。遊戯は仕事ではありません、何處迄も子供の自由を重んじて遣らねばなりません。且遊戯は子供の自身の活動の充分なるを要するので人から手をあげよと云はれるから手をあげるでなく自分でやるでなければなりません、又目的に適ひません、自分でしたことでなければ能力は發達しません。次には玩具に注意することでありま

す。

子供を遊ばせるには玩具が大切であります適當なる善良なる玩具を興へると云ふことが肝要であります、別に高價のものには及びません、最も必要と思ふものを興ふることが大事であります、土産物などに高價なるものを求めて來る要はありません

子供自からの求むる所の玩具が大に効能あるものであります、遊戯の種類をよく考へて之に適したるよき玩具を興ふると云ふことが必要と思ふます

一方に教育の目的を立てながら之に背ひいた遊戯をさせ玩具を興へては却て反對の方面に導くこととなりまますからよく注意しなければなりません。

(二) 子供の讀みもの

子供でも有益なるものを讀むことによりて父兄の氣がつかない思想を持つて居ることがあります殊にませた子には特にかゝる弊害があります。

お伽噺も中々少年の讀み者として大に教育上利益があるものと云ふ點から少年の讀み者を豊かに興ふると云ふことになりましたから父兄たちの知らざる方面に子供の智識が發達して居るのであります、而し子供に多くの讀み者を興ふると云ふことは有害であります、なせかと云ふと現在讀み者と云ふと子供の想像力を興奮さす上に大なる力を持つて居るもので子供の趣味に適してをりますすが之は或

る程度までは、教育上大切であります。想像力の發達し過ぎると云ふことは却て危険であります。之は別に理由を申さなくとも御分りのことと思ひます。

大きな青年でも小説に耽けるが爲めに大なる弊害を生じたこと云ふ様なことは明白なることであります。之と方面は異なつて居りますが同じく想像力より來る弊害は同一であります。故に讀物も亦之を制限すると云ふことが大切であります。次には

(三) 子供の家庭に於ける日常生活

之は知らず知らずの間に子供を變らせるもので周囲の空氣、社會、氣候等を適當に醗梅せざれば子供を感化することはできません。家にある子供の日常生活は其凡てを教育的ならしむることが大切であります。而して家には夫々仕事あり特色がありますから教育上より見てどの家庭をも最上の教育的家庭とすることはできません。而し兩親たるものは子供のためにはあるものを犠牲とする

ことも大切でありませう。

子供のためならば酒や煙草とか云ふものを犠牲にして止ると云ふ其合に、ある點まではあるものをぎせいにして以て己れの家を教育的にすると云ふとは容易のことでありませう。之は充分にはできないこととありますが又いかなる家でもできることは申されませんが或る程度迄としか申されないのではありませんが家庭に於ける日常生活が子供の精神を支配することは大なることでありますから出來るだけ注意しなければなりません。

特に子供が兩親に對する感情といふものは家庭の生活の狀況より來るのであります。日本の國體が三千年の歴史ありて初めて大和魂を生ずると同じく家庭の生活が孝行なる子供を作り出すのであります。子供と兩親との關係よりできるので、之は學校が孝を教へたからにもあらずして心から知らず知らずの間に來るべきものであります。孝行をせよと云はずとも子供の心にできると云ふことが大

切であります、子供はなきけ深き母の感情を忘れないのであります、此母に對する子供の感情が家をなす元となるのであります、子供が夜中目を醒せば母はねむき目をもあけて子供に乳をのませる子供は其母の乳を持つてねる、之が母に對する感情となりて親密となるのであります、子供が此感情を作らざれば母と子供との關係は冷やかなものであります、かくては父に對する感情は尙更冷淡となるのであります、蓋し父は子供に對しては間接でありますから子供と母とが結び付かざれば子供と父とはひろん結び付かんののであります、子供が母にたよると云ふこの心が大層大切でありますかくて両親と子供とが強く結びつくのであつて子供が大きくなつて家に歸りても父の顔は見えなくとも淋しく感じないけれども母の顔が見えなければなんとなく淋しく感じて其母をさがします人にも其母の在所をきゝ又自身で家中をまはりたくなるので此感情は子供の時の母の慈愛から來るので

若し母にして慈愛心といふものがなかつたならば此事はありません、此感情あるがために母と子供とが結びつき又父と結びついて初めて家庭を形作る事ができるのであります、家庭に於ける日常生活に注意してある意味深きものとするには父兄たるものは子供に對してよく考へをめぐらさなければなりません、而し之がために殊に政治的手段などを用ふる要はありませんが子供に己れの感情をうつし得る様に支配して行くと云ふ精神を持つて居ることが大切であります、次ぎに

(四) 子供の外出

家にありて己れが注意しつゝある人を知らず知らず悪しき子供とするのは種々の理由がありますけれども外出を注意せざる事が原因となることが多いのであります

外田と云ふことは種々の事を子供に教へるもので子供が或は見世物を見に行くとか散歩にでるとか遠足に行くとか旅行にでかけると云ふことは教

育上大なる影響感化を及ぼすことが多いのであります、之は知らず知らずの間に子供をある方面に導くからであります観覧物を見たゝめに子供がある方面に導かれたるなどと云ふのは多くあることで、例へば淺草や上野に行つてきたためにある方面に子供を向はせたとか又ある富家の子がある勸工場である盗みぐせある子が繪草紙屋の本を盗み取るのを見たため己れもそれをまねしたくなりて遂己れが其を實行したなどと云ふとがあります、かくのごとく外出した時に子供が見たりしたとか又世人のしたことを見ては頭に入れて置いて其ことをまねして後には家庭のしつけに反對した方面に走りて父兄と云へども之をいかんともすることはできない様なことになるのでありますから特に外出と云ふことには注意せなければなりません。

それが爲めには外出から歸つた時には子供には何か變化なきや否やに注意し又今日の外出遠足に

はいかなる獲物を得て歸つたかを常に注意しなければなりません、子供の變化と云ふことに氣をつけて己れの目的に反したる點はなきや若し反したる點ありと認めたる時は直に之を打破することに盡力せなければなりません。

かくて常に兒童の外出、遊び、玩具、讀物に氣をつけて居られたならば子供を横道に導く様なこととはなれと思ひます、それから子供と云ふものは大きな子供と小さな子供に於て其發達階段に差違あることに注意しなければなりません、幼稚園の子供と小學校の兒童とはいかなる點が違ふかと注意して之に適したる教育を施すことが肝要であります、是は大體兒童研究の任務であります、今日まで充分に研究が出来ては居りません御同僚兒童の教育に従事して居るものは今後努めて此方面の研究を進めて明瞭な區別を立て大に家庭教育に費する必要があります。

終りにもう少し御話したかと思ふことは

(五) 金銭のこととであります

子供の教育の爲めに父兄たるものが金銭を要すると云ふ事は子供自身も之を知つてをるのであります。此金銭を儉約すると云ふことを教ふるが教育上甚だ大切なことであると思ひます。子供の教育に使用する金銭は其直接に使用するものであつたらば身分相當より儉約する方がよいと思ひます。間接に使ふ錢であつたらばなる可く多きをよしとします。すけれども直接に使ふ錢が多いと云ふことは有害無益であります。子供を教育するために顧問を置くとか又之がために圖書館を作るとか間接のためならば多額の費を投するも決して非でありません。而し直接に使用する錢例へば帽子を買ふとか鉛筆を買ふとか之等の費はなる可く儉約するのが宜しいので他の方面から云へば悪い鉛筆、悪い紙を持たせるとかと云ふでなく之は程度問題で或る程度以上のものを用ひしむる用がないと云ふのであります。圖書をかくには此位の

鉛筆ならばかけると云ふものであつたらそれで足るので其以上に贅澤なものを持たしむるのは宜しくないと思ふのであります。

かゝる無用の物に金銭を出しては子供に浪費と云ふことを教へるのであります。金銭の價値を安からしめるのであります。従つてかゝる子供は世間の普通の物價を高く見積ると云ふことになるのです。即ち子供の日常生活の度合が上流のものだと云ふことを示すことゝなります。

大名をそだてるならば之で差支はありますまいがさなくとも常識を養成する教育にありては大なる間違ひであります。凡て物價には程度があります。此度以外に價値を思はせると云ふことは甚だよろしくありません。

筆に何十錢、紙に何十錢かゝるなどと云ふことを思はせるのは甚だ有害であります。初めから有爲の人とならしむると云ふのが、家庭の目的でなく大名を作り上品の人を作ると云ふのが家庭の目的

であるならば浪費と云ふことも差支ありませんまいが有爲の人物を作り常識ある人物活動する人間を作りたいのが目的であるならば品物の眞價を知らしむるでなければなりません程度以外の物價を思はせてはなりません儉約とは此點であります、尤も物價と云ふものは世の進むにつれて高くなるので明治以前と今とは大差があります、物價より金銭の價値が安くなると云ふことはあります唯子供に任かして置いて世の進みより子供の考へを早からしむることはよくないのであります、なる可く子供の考へを變化させないのが子供のため、社會のためにもよいと思ひます、吾人は子供の將來を考へることが大切であります。かくて此世を不仕合せにする所の原因となるものを除いてなるべく世の中を仕合せなものと思ひます、社會黨が出づるに至つたのも、金銭の價値が下がつたのが原因かも知れんので危険千萬のことであります、子供に金銭の眞價を知らしむると云ふことは

急務と思ひます生計の貧乏家には一錢の錢も價ありてかゝる家にはかゝることを云ふ必要もありませんが少し豊なる家の子供にありては或は十錢、五十錢の錢は少しも價なきものと見る様な子供ができることがありますから注意せねばなりません。要するに教育問題は家庭と學校とが一致すべきでありますが學校には學校の目的あり、家庭には家庭の目的がありますから學校には學校に於て實行し易き所あり又家庭には家庭に實行し易き所ありて各其長所を有して居りますから其長所を捕へて之を實行して互に助け合はなければ教育が充分に出来ないであります。

外へ外へ (三)

○子どもの自己活動の最も正常な又最適當な資料として自然の如くいものは無い。理屈なく教へ、教へずして活動せしむるもの、自然に如くものは無い。假りに草原に子どもを放つて、その自由に遊ぶまゝを見よ。きまりきつた種木や折紙の練習と違つて、如何に存分に、如何に端しく、子ども等の自己活動が擡にさるゝかに驚やであらう。世に子どもに最も適當な玩具として、自然玩具の如く適當なものはない。天の興へた自然を、天の興へた自己活動によつて樂むのが、自然玩具の第一である。